



千葉県地域IT化推進協議会
食の価値情報部会

平成24年度活動報告
平成25年度活動計画

2013年5月27日



活動経緯

平成22年度	平成23年度	平成24年度
<p>食関連業界における 情報価値の探究を 目的に部会発足 (千葉県RIPs事業の一環)</p> <p>食の源流である 農業の情報化を 研究</p>	<p>農業の情報化の 実証開発を実施 (「農家の日記帳モデル」 →現「畑らく日記」)</p>	<p>2つのテーマについ ての勉強会を開催</p> <p>①農業とIT</p> <p>②食品加工業</p>



《平成24年度活動》

『農業情報の有効活用に関する共同勉強会』

気象情報や農作業履歴、植物の生育情報といった農業にまつわる様々な情報を栽培計画や土壌管理等の農業経営にいかにより有効活用していくべきかをテーマに、千葉県内の農業支援関係者とITベンダーにお集まりいただいて意見交換する共同勉強会を開催。

1. 日時 2012年9月4日(火)

2. 場所 千葉県農林総合研究センター 農本館A会議室

3. 内容

(1)「畑らく日記」商用化状況について

株式会社イーエスケイ 代表取締役社長 片山様

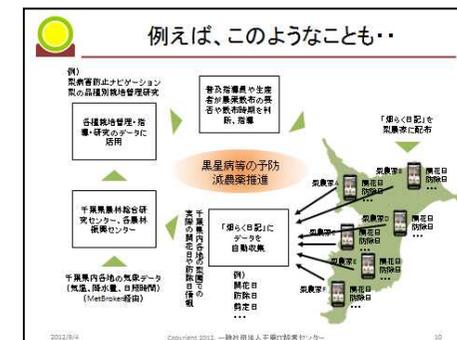
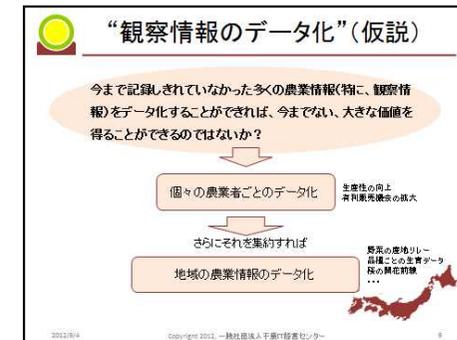
(2)農業における観察情報のデータ化(ビッグデータ)の可能性

一般社団法人千葉IT経営センター 理事 堀

(3)農林総合研究センターにおける情報化関連成果の紹介

千葉県農林総合研究センター 企画経営部 企画情報室 鈴木様

(4)農業情報の有効活用に関する意見交換





《平成24年度活動》

『農業のIT化についての現状 “農業情報”の活用方法』

千葉県立農業大学校様にて、講義形式での意見交換を実施。

1. 日時 2012年11月15日(木)

2. 場所 千葉県立農業大学校

3. 内容

10:40~10:55	ご挨拶、「畑らく日記」の紹介 グループ演習①の説明
10:50~11:15	グループ演習①「農業において蓄積が必要な情報」 ※各グループで「畑らく日記」を操作しながら検討
11:10~11:20	グループ演習①の発表
11:20~11:25	グループ演習②の説明
11:25~11:45	グループ演習②「農業情報の共有化」
11:45~11:55	グループ演習②の発表
11:55~12:10	質疑応答、まとめ

グループ演習①「農業において蓄積が必要な情報」

1. 農業経営において、ノートやパソコン等で記録し続けていく必要がある情報は何か？
2. 特に農業後継者や新規就農者にとって必要な情報は何か？
3. 「畑らく日記」のようなスマートフォンを使ったシステムで蓄積していくのに最もふさわしい情報は何か？

2012/11/15 Copyright 2013, 一般社団法人千葉IT経営センター 6

グループ演習②「農業情報の共有化」

1. 農業情報のデータ化（共有化）の懸念
2. 開示/共有したくないorすべきではない情報
3. 開示/共有したいorすべきである情報
4. 開示/共有できたらできるようになること（想定・妄想）①
5. 開示/共有できたらできるようになること（想定・妄想）②

2012/11/15 Copyright 2013, 一般社団法人千葉IT経営センター 6



《平成24年度活動》

『“農業×IT” オープン勉強会 in 千葉』

農業をITで支援することにご関心やご興味をお持ちの方ならどなたでも参加することができる、オープン勉強会を開催。

1. 日時 2013年2月5日(火)

2. 場所 クロス・ウェブ幕張

3. 内容

- ・農業とITの現状について
- ・農業向けIT製品事例「畑らく日記」について
- ・JGAPと農業ITについて
- ・農業情報の共有とビッグデータについて

4. 講師

株式会社軽井沢IT経営センター 代表取締役 高見 康昭 様
アイティ経営研究所 代表 中尾 克代 様

ドメインを変えると自然と広がるマーケット

健康価値？
効用？
機能？

お腹を引っ込めたい。健康でいたい。長生きしたい。

メタボ対策業になってもいい

病院と提携してもいい レストランを併設してもいい

商材が実現する機能・効用・成果が本当の商品である。

ビジネス化の2つのポイント

売れ続けるブランドは、品質や特徴を証明する仕組みやコンテンツがあって、それを伝えるファンがいることである。

品質管理
栽培方法、栽培履歴、生産農薬、肥料、病気、土壌

マーケティング
商品、価格、販路、販促
マーケティングの4P

農家とは？①

農家：経営耕地面積が10ヘクタール以上又は農業所得が15万円以上の農業者	主要農家：農業所得が500万円以上600万円未満の農業者	経営耕地面積 5.1ha/戸(農地の52%)
	その他の農家：農業所得が500万円未満の農業者	生産量 米：約4割 他：約6割
		平均年齢 56.4歳
		農業粗収益 14百万円
		農業所得 464万円

農家 252.8万戸	主要農家 36万戸(14%)	経営耕地面積 1.2ha/戸(農地の48%)
	その他の農家 216.8万戸(86%)	生産量 米：約6割 他：約2割
		平均年齢 65歳
		農業粗収益 3百万円
		農業所得 35万円

© 農林水産省 農業者生活向上課 農業者生活向上課 農業者生活向上課 農業者生活向上課
2013/1/15 Copyright 2013 一般社団法人千葉IT経営センター



《平成24年度活動》

『“生産余力シェアサイト”ワークショップ』

食品製造業のIT経営を支援する新たな枠組みを考えるワークショップを開催。当会が仮説としてご提示する“生産余力シェアサイト”は、需要の波の変動が大きい中小規模の食品製造業が、全国規模で互いに生産ラインの余力を融通しあう、新たな委託生産の枠組みです。本ワークショップでは、その仮説に関するディスカッションを通じて、中小規模の食品製造業が抱える課題、ITにより解決できる可能性、等を導出してまいります。

1. 日時 2013年3月21日(木)

2. 場所 ホテルプラザ菜の花

3. 内容

【ご講演】遠赤青汁株式会社 CIO インターネット担当 渡部一恵様

【ご講演】日本事務器株式会社 榎谷様

【ご講演】株式会社イーエスケイ 友井様

ワークショップ&発表

「生産余力シェアサイト」のスペックを自由につくってみよう！



ワークショップシート
検討軸(1)

- どんな食品加工業に向いていると思いますか？
- ①商品特性(例:簡単なレシピ、どこでもある原材料、等)
- ②はん(汎用品:どこでも、特徴が少ない、加工技術が独特ではない)規格品?
- ・生か加工品か(距離と時間の制約面(鮮度))
- ・素材の近く、生産地の近く
- ・デリバリーコスト<利益(余力)
- ③業務プロセス範囲(例:野菜カット、包装のみ、等)
- ・一次加工(皮むきなど)
- ・委託加工(材料調達まで?)
- ・福祉作業所での加工
- ・粉末加工の請負(加工技術を売りたい=新商品化に近い)
- ・同じ機械を使っている工場
- ・よい機械を使いきれていない工場
- ・高価な機械で行うプロセス、使いこなすに技術が必要

※制作段階は別紙参照

※リットが「産ま」「品質」??

※前提として、業務が整理されていること



平成25年度活動計画案

分野	平成25年度活動計画案
一次産業	1) 農業とITに関する勉強会
二次産業	1) 外部環境変化による食品加工業へのインパクト 2) 生産余力シェアサイトのコンセプトメイクとフィールドサーベイ
三次産業	1) 飲食店が求める食の価値情報